

政権交代による市政への影響について

四 竈 英 夫

〔質問〕新政権は、「税金のムダづかい根絶」に向け、『事業仕分け』を行い、事業の必要性、合理化の可能性などを検討した。それらが、実施された場合、本市の受ける影響をどのようにとらえているか。また、地方交付税など市の財政に直結する予算の動向。道路特定財源問題など市民生

活に大きな影響が予想される。よって、次の項目について見解を伺いたい。
①平成21年度財政見直しについて。
②平成22年度予算編成の基本的考えについて。
③第5次白石市総合計画策定の基本方針について。

【その他の質問】
○白石川の清流を守るため、流域の小原地区等での浄化設備の設置推進について。

〔答弁〕①国の政策、財政出動など日本の経済情勢、社会が目まぐるしく変動している現在において、今後の財政見通しが非常に困難である。
②行財政改革推進計画、集中改革プラン改訂版の初年度に当たるといふ認識のもとに、当初予算編

成においては「市民と行政のパートナーシップによるくらし日本一のまちづくり」の実現に向けた事業や、重点施策である「4万人都市復活大作戦」に掲げた事業も含め、事業の存否を厳しく検証しながら、歳入確保と歳出抑制など改訂版への着実な取り組みを図ることが予算編成に当たるとの基本的な考えである。
③今年度から作業を開始し、第4次総合計画を検証の上、

市民の意見をよく聴取し、市民にわかりやすい総合計画とすることを基本的な方針としている。
そのため、市民委員24名、市職員25名からなる白石デザイン会議を設置し、第4次総合計画の検証を皮切りに検討を始めたところである。
また、新年度からは各地域に出向き市民の方々の意見をお聞きしたいと考えている。

障がい者福祉について

水 落 孝 子

〔質問〕集中改革プラン改訂版が示され、自主財源の確保として使用料・利用料の負担の見直しが提案された。受益者負担の原則は福祉になじむのかと考え、次の点について伺う。
①障がい者福祉サービスの目的はなにか。
②障がいがあっても、社会参

加を築く事への支援が必要ではないのか。
③要求が出ているバリアフリー化、移動支援の現状に対する所見。
④今回の負担の見直しは障がい者にとって生きる希望を奪うものとの認識はあるのか。
⑤第5次白石市総合計画への反映について。

〔答弁〕①障がい者が地域社会にも貢献できる仕組みづくりを構築できるよう支援しているところであり、その上で障がい者の自立と社会のあらゆる分野への参加促進も重要であると考えている。
②白石市障害者基本計画には、基本理念としてノーマライゼーション、リハビリテーション、基本方針として障害福祉サービス等の提供体制の強化、地域支援体制の強化、早期療育・教育の充実、保健・医療の充実、就労・雇用の促

進、生活環境の整備を掲げているところであり、この計画を受け、第2期の障害福祉計画もつくられているものと思っている。
③新規の施設等については、バリアフリー化を考慮し、既存のものについても、中央公民館のトイレ改修工事などのように、限られた予算の中で努力をしている。
移動支援については、身体障がい者用の自動車改造費補助事業をはじめとする移動支援サービス事業等を実施して

いる。
④国から支援のあるもので、負担を求められているものについては、支出をいかなければならない。
しかし、市独自の事業については、「理解と協力」をいただきたい。
⑤健康づくりと福祉の充実には外せないものと思っており、このことは、現在実施している4万人都市復活の戦略にも高齢者支援、障がい者支援として掲げていることである。